

皇居参観案内図

● (- - - 一般参観コース) 参観所要時間は約1時間15分



桔梗門



江戸城桔梗濠に面した門が桔梗門で、「桜田門外の変」で井伊直弼が暗殺された外桜田門に対して、内桜田門とも呼ばれている。この門を入ると江戸城三の丸で、大名などの登城は、大手門と内桜田門(桔梗門)と定められていた。現在では皇居一般参観の入城門になっています。

太田道灌の家紋が桔梗で、桔梗門、桔梗濠の名の由来になっている家康が入府した頃(1,603年)には町家など茅葺の家が100ある程度

窓明館



昭和61年(1986年)から使用開始した建物で、参観開始時間までの参観者休所として使用されている。

富士見櫓



富士見櫓は、明暦3年(1657年)の大火で焼失した2年後の万治2年(1659年)に再建されたもので、江戸城の本丸の建物の中で現存する貴重な遺構となっている。高さ約16メートルの美しいシルエットを見せる三重の櫓は、どこから見ても同じ形に見えるため八方正面の櫓とも呼ばれている。

宮内庁庁舎



昭和10年(1935年)に建築された建物で、庁舎3階は、昭和27年(1952年)に改装され、昭和43年(1968年)の宮殿落成までの間、仮宮殿として使用されていた。

宮 殿



昭和43年(1968年)に完成した鉄骨鉄筋コンクリート造りの地上2階、地下1階の建物。宮殿は、その中心をなす正殿、豊明殿、長和殿、連翠、千草・千鳥の間など7つの棟から構成されている。現在の宮殿は、天皇皇后両陛下のお住まいになるところではなく、国賓等の接伴や国の公の儀式・行事などに使われている。

宮殿東庭



新年(1月2日)及び天皇誕生日(12月23日)の一般参賀は、この広場で行われている。天皇皇后両陛下・皇族方は、この広場から見える長和殿中央バルコニーにお出ましになり国民からのお祝いを直接お受けになる。その際、天皇陛下からのお言葉がある

正門鉄橋(二重橋)



江戸時代は西丸下乗橋と呼ばれていた。
西丸下乗橋(木製の二重橋)は、濠が深いために橋桁を二重にした構造上から「二重橋」の俗称で呼ばれていた。明治22年の明治宮殿造営にともない、ドイツ人ウィリアム・ハイゼの設計による鉄橋に架け替えられた。

正門石橋(めがね橋)



正門石橋。二重橋だと誤認されることがある
ただし現在正門鉄橋と正門石橋の二つの総称としても用いられている

伏見櫓



皇居で最も美しい櫓と言われており、三代将軍家光の頃一国一城令が(1,615年)に幕府によって制定された。諸大名に対し、居城以外のすべての城の破却を命じたもの。山城の国には二条城・伏見城の2城があったので伏見城を壊し解体して移築された。

山下通り



皇居の中でも割合に静かで緑多い通りとなっている。